

財政危機下における組織機構の見直しを

小 田 良 一 議員

行政組織のあり方について
の見解を伺う。

① 部署によっては、時間外が少なかったり、比較的忙しくない時期があると思うが、効果的な事務処理の平準化が図れないか。

② 管理職は、どの程度課内の業務を把握し、時間外を含めた業務命令をしているのか。

③ 機構や事務事業の見直しをするための検討委員会を立ち上げたが、その結果は。

④ スタッフ制に移行した企画室の効果は。

問 町長は先の町政執行方針において、「財政危機への対応が急務であり、この問題の解決なくしては将来のまちづくりの展望が開けない」と言われている。

最少の経費で最大の効果を上げるためにも、歳出を最小限に切りつめる方策が必要である。

第2次行政改革での職員数の目標数値はクリアしているが、更なる効率的な行政運営を進めるためにも、



町長 ① 時代変化の激しい中、臨機応変に、あるいはそれぞれの立場を考えた中で仕事の配分、事務の平準化を進められていかなければならないと考えている。

② 管理職は課内の年間の業務量を把握し、業務の円滑な遂行に心掛け指示をしている。時間外は、係長から事前に必要な業務内容の申し出を受けてから行うシステムになっている。

③ 行政改革本部に組織機構

検討部会を設け検討してきた。その後、更別村・忠類村との市町村合併協議会が設立された。平成15年に中間報告を行い、現在、なお引き続き合併協議の中で検討している。时期的にも早急に対応しなければならぬ問題でもあり、十分な対応をしていきたい。

④ 企画室は総合調整、総合企画を業務としていることから、企画室内での協議が大切であり、スタッフ制の効果が出ているものと考えているが、すべての課に通じるかとなると、デメリツトや改善を要することが考えられるので、十分検討しながら対応していきたい。

いきいきエンジョイ教室の今後の方向性は

問

平成12年度から、介護保険制度と同時に「いきいきエンジョイ教室」を町の高齢者福祉施策の一環として開催してきた。

その目的は、家に閉じこもりがちな高齢者の方に近くの近隣センターに集まっていたいただき、健康体操や趣味の活動を行い、地域との連帯の中で高齢者の社会参加を促進しようとするもの

であるが、次の点について見解を伺う。

① 参加状況の推移と有料化について。

② 事業を支える地域の方々への支援状況は。

③ 地域主導の事業推進の可能性は。

町長 ① 参加状況は、平成12年度、町内9カ所で開催されたべ1,499人、平成13年度は2,075人、平成14年度は2,237人である。今年度について

も、ほぼ前年度並みの参加を見込んでい

る。

参加された方からは、

楽しい一時が過ごせる「いきいきエンジョイ教室」

参加された方からは、

楽しい一時が過ごせる「いきいきエンジョイ教室」

参加された方からは、

参加された方からは、

「とても楽しく元気が出た」、「新しい友達ができてうれしい」という声が寄せられているほか、教室で学んだ、楽しんだゲームや運動が老人クラブの例会などで披露されているようである。

有料化についてはいろいろな意見があると思うが、まずは利用していただく方の意見、そして何よりも喜んでいただけていることが第一であると思っている。

② 登録された52名のボランティアの方の中から、各会場ごとに2〜5人程度のお手伝いをいただいている。

人生学博士、リーダーバンクの活用も含めながら、ボランティア活動を支援していただく皆さん方との協力体制をとりながら進めていきたい。

③ 地域主導については、いろんな情勢を見るとともに、国において、要介護状態になる前段階から要支援や要介護1程度の方に対して、新たなサービスのあり方を検討していることから、十分内部で検討し対応していきたい。